

春風秋霜 12月号

平成28年12月1日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 ICT活用授業を参観して

10月31日（月）に六合東小学校において、理科の授業を参観しました。今後、導入を計画しているタブレットを使った授業なので、興味をもって参観しました。6年理科の授業は、5種類の水溶液の性質を調べるため、リトマス紙の反応を写真に撮り、添え書きを入れ、発表時に提示するという展開でした。

子供たちは、6月に導入したタブレットを使いこなし、教師も子供たちのつくった資料を効果的に提示していました。タブレットで実験結果を写真に撮り、その写真に必要な説明を記入できるメリットは大きいと思いました。また、教師にとっても過去の授業で使った資料を速やかに提示できることは、子供たちに既習事項を思い出させるのに効果的でした。

タブレットの提示機能を使った授業であったので、コミュニケーションツールとして使う授業での効果は見ることはできませんでしたが、今後の授業での活用が期待されます。

教育機器は、使い慣れることが重要です。様々な可能性を秘めたツールですので、食わず嫌いにならず、積極的な活用が求められます。

2 市内のイベントについて

11月12日（土）に帯通りで行われた市産業祭とローズアリーナで行われた防災運動会を見学しました。産業祭では、様々な物品が販売されているだけでなく、ステージでの発表や木工ブースもあり、大変な人出でした。興味をもったのは、市内の建設業の方々が材料の提供や道具の貸し出しをしていた木工体験です。材料がふんだんにあり、自由に何でもつくれるという機会は、学校や家庭では難しいですから、子どもにとっては大変ありがたい企画だと思います。



ローズアリーナで行われた防災運動会は、土嚢運びや防災〇×クイズなど親子で参加するメニューが用意されていました。外の駐車場等では、消防車・はしご車・パトカー・自衛隊の装甲車の展示とJ C（青年会議所）の皆さんにより炊き出しが行われていました。防災に関する知識を学ぶだけでなく、様々な魅力が詰まった企画だと思います。

しかし、両方の企画とも参加している子どもの数が少ないことが残念でした。もっと、このような企画を活用し、子どもたちの興味や関心を広げることが、地域の魅力発見になり、キャリア教育にもつながると思います。島田市の総合教育会議では、学校教育における公平な教育と、地域の力を活用した子どもの個性や特質を伸ばす教育の必要性が話されています。子どもたちに地域で行われる企画に積極的に参加するように、働きかけをお願いします。

3 大井川マラソンについて

10月30日（日）に行われたリバティマラソン大会には、フルマラソンの部に8,134人、10kmの部に1,245人が参加しました。気温が低く、走りやすかったため、完走率が93.8%と大変高かったそうです。リバティがフラットで走りやすいため、目に障害を持った方を3人も見ました。これも、この大会の特色だと思います。

また、ボランティアの参加も多く、企業や自治会単位の参加もあり、大会運営の大きな力になっていました。また、中学生や高校生のボランティアも多く、ゴール直後の記録用チップの取り外しや、給水のために長い時間頑張っていたその姿には頭が下がりました。疲労困憊してゴールした参加者にとって、生徒たちの励ましの言葉や笑顔に癒された方は多かったと思います。高校生も参加者を荷物置き場で待つのではなく、参加者に自ら近づいて荷物を届ける姿に、若さとたくましさを感じました。こんな生徒たちが島田市の未来を担ってくれるものと思いました。

4 研究発表会を通して

11月には、北中学区小中連携研究発表会が北中学校と伊太小学校で、和文化教育研究会が大津小学校で行われました。2年間の研究の成果をまとめる作業は、大きなエネルギーを費やしたと思います。関わった教職員の皆様には心から感謝いたします。

研修や研究は、継続性が求められます。これまでの成果を踏まえ、新しい考えを取り入れていかなくは、前進はありません。二つの研究発表会の成果と課題を自校の研修や授業に生かして欲しいと思います。

肘かけ椅子

杉山 郁夫

図書館課長

『ジャンボ干支情報』

今年も11月23日（水）から金谷大代のジャンボ干支の制作が始まりました。

例年奇抜な干支が作成されます。まだ骨組みですが、12月に入れば形は整っているでしょう。今回の「酉」も期待できると思います。

地元コミュニティー団体「王子田会」が、最初はジャンボ門松作りから始めました。そして、干支作りが変わり徐々に大きくなり、ジャンボ干支として取り上げられるようになりました。

世上に合わせた干支の作成、併せて行う手作りの正月飾りの制作・販売や河村家への来館奨励、地域と連携した地元野菜の販売等、毎年必ず新しい企画が生まれ、常に進歩しています。

大勢で楽しく作成に携わり、大勢の見学者が訪れてくれて、地域全体の活性化に繋がっているよう応援したいと思います。

図書館でも「王子田会」に負けないよう、年初めの事業として、来館者の方に楽しんでいただける島田図書館の「図書館福袋」をおこなっていますが、加えて島田・金谷・川根3館で図書館おみくじを始めます。

来年のラッキー図書を図書館で借りて、幸運を呼び込んでください。